



# ヤマトグループ 決算説明資料

＜2026年3月期 第2四半期（中間期）＞

2025年10月30日

ヤマトホールディングス株式会社

# 1. 連結経営成績（サマリー）

## 【2026年3月期 第2四半期（中間期）業績】

【営業収益】 9,067億円 （前期差＋663億円）

【営業利益】 △37億円 （前期差＋112億円）

親会社株主に帰属する  
【中間純利益】 △48億円 （前期差 ＋62億円）

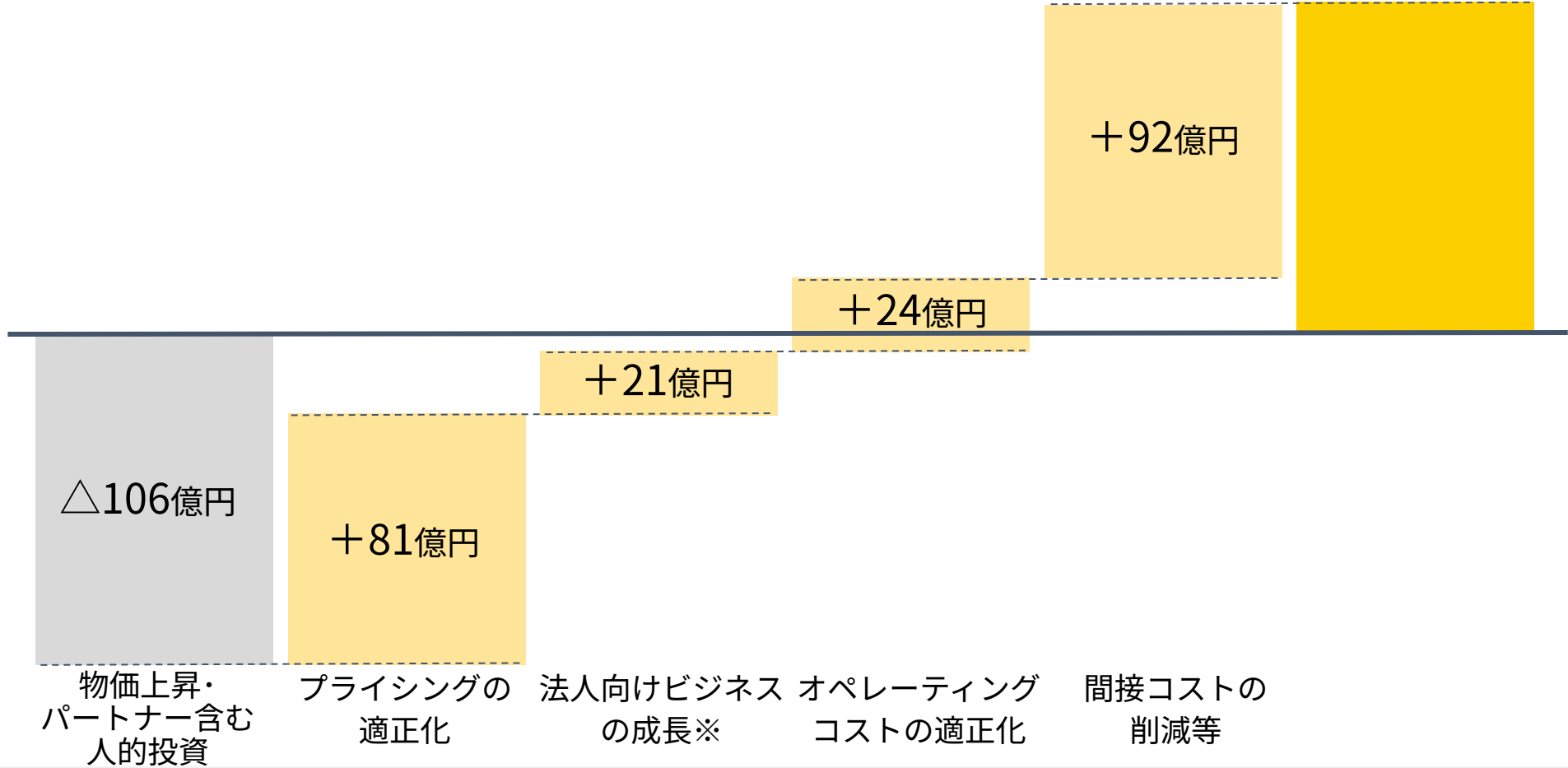
- 営業収益および営業利益・中間純利益は、概ね期初の想定通りに着地
- 営業収益は、物価上昇や実質賃金減少の継続等により個人消費が停滞する中、法人部門（大口法人顧客）のプライシング適正化、宅急便部門（小口法人・個人顧客）の取扱数量拡大、および法人向けビジネスの拡大が進展し、増収
- 営業利益・中間純利益は、引き続き宅急便ネットワークの強靱化に向けた人的投資やネットワーク投資を実行しつつ、プライシングの適正化や輸送領域のオペレーション見直し、間接コストのコントロール等に注力し、改善

## 2. 営業利益の増減要因（前期差）

- ・ 宅急便ネットワークの強靱化に向けた人的投資を執行しつつ、利益成長ドライバーの施策を推進し、**中間期で112億円の増益**

2026年3月期中間期  
実績：△37億円  
**+112億円**

2025年3月期中間期  
実績：△150億円



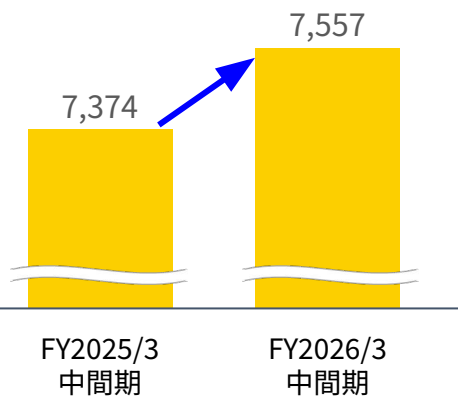
※のれんの償却費（約7億円）、本社関連費用の配賦方法変更影響（約12億円）を除いた実力値ベース

# 3. プライシングの適正化（法人部門）

- ・付加価値に応じたプライシングの適正化を推進し、収益性を向上させる方針  
→法人単価は上昇が継続。対象顧客との交渉は一巡し、10月以降に順次反映予定

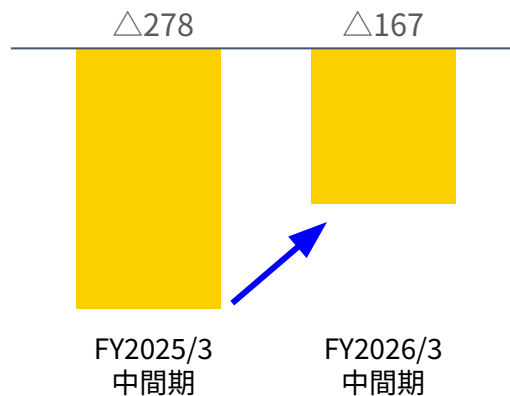
## EXP事業 営業収益（外販）

（億円）



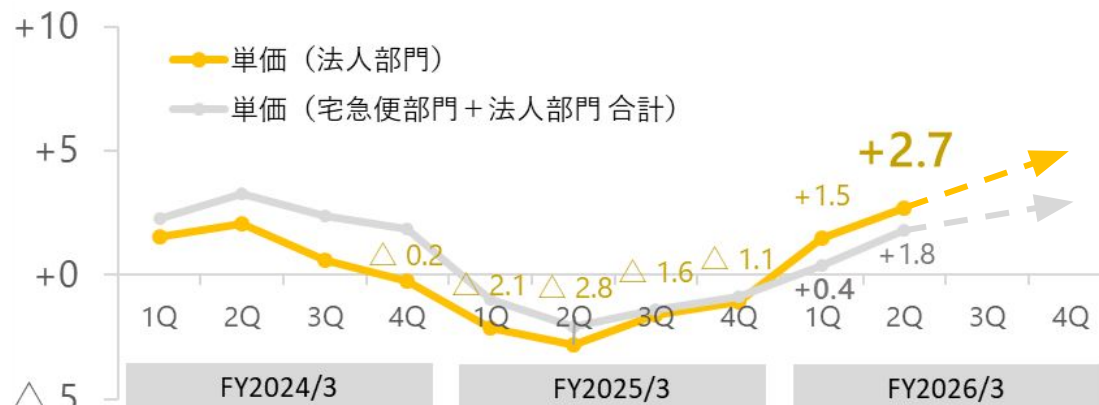
## EXP事業 営業利益

（億円）



## 平均単価の推移※ （対前年伸率）

（％）



## FY2026/3 2Q(中間期)の進捗・課題

- ・プライシング交渉・単価上昇が進展
  - ・低採算顧客を中心にプライシング交渉が進展
  - ・対象顧客との交渉が一巡し、10月以降順次、新たなプライシングが反映する予定

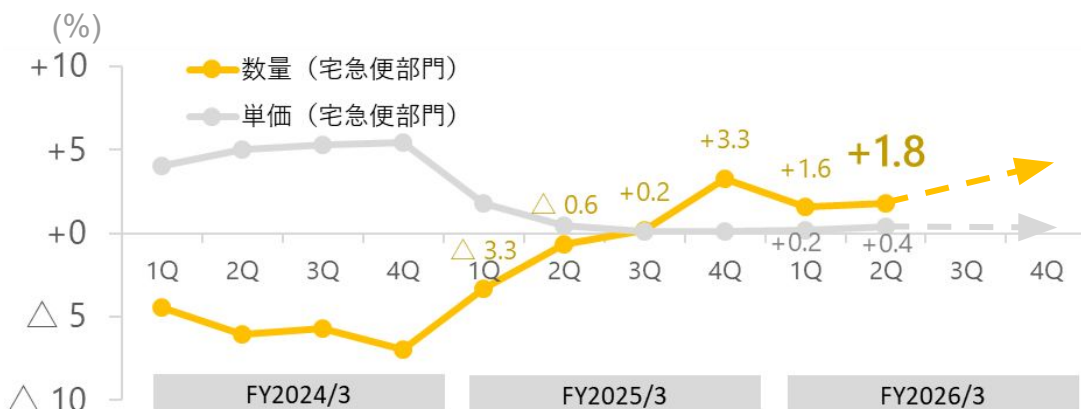
## FY2026/3 下期以降の方針・施策

- ・付加価値に応じたプライシング適正化の推進
  - ・付加価値に応じたプライシング適正化を継続
  - ・既存顧客との年次でのプライシング見直しも併せて推進

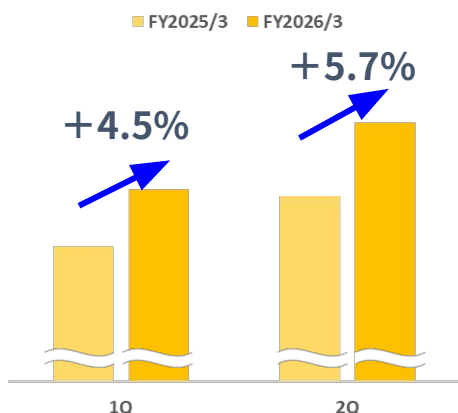
# 4. 宅急便収入の拡大（宅急便部門）

- ・ 相対的に単価の高い宅急便部門では、取扱数量を拡大し営業利益を押し上げる方針  
→ 4四半期連続で数量増加。営業強化を継続しつつ、需要量を踏まえコストをコントロール

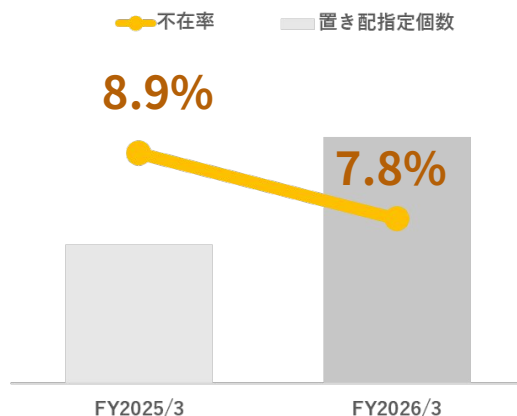
取扱数量・平均単価の推移※  
(対前年伸率)



SD稼働当たり収入の推移  
(対前年伸率)



不在率の推移  
(中間期)



## FY2026/3 2Q(中間期)の進捗・課題

- 宅急便部門の取扱数量が増加継続（単価水準は維持）
  - ・ 引き続き拠点や人材等の再配置を進め営業力強化を推進し、セールスドライバー（SD）稼働当たり収入は着実に増加
  - ・ お客様の多様化する受け取りニーズに対応し、不在率が低下  
→ SDは集荷の比重を拡大

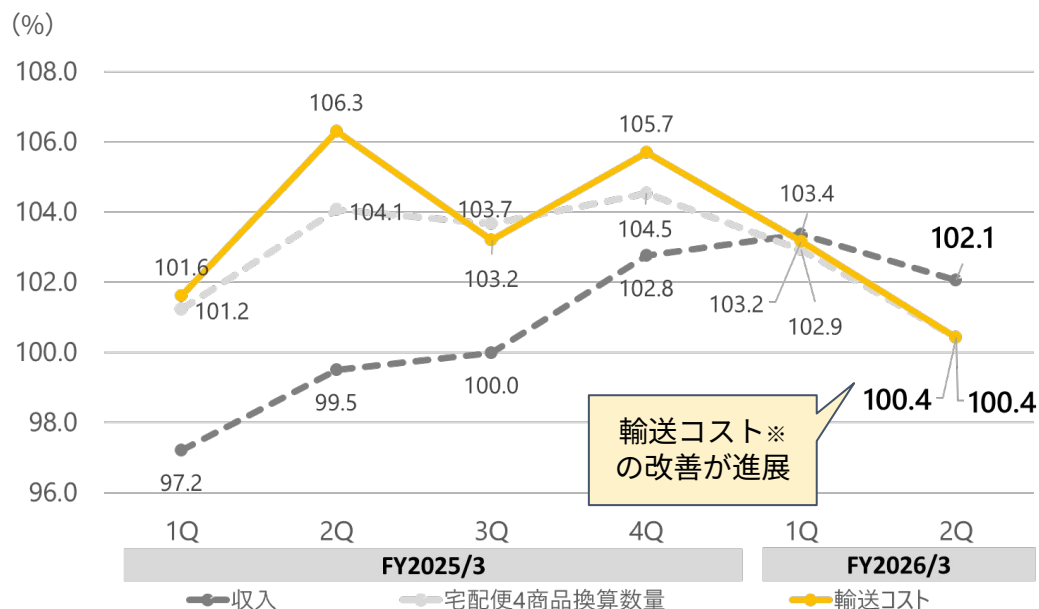
## FY2026/3 下期以降の方針・施策

- 宅急便の利用促進とプライシング適正化を継続
  - ・ 大きいサイズ、ゴルフ・スキー宅急便の運賃引き上げ（2025年10月～）
  - ・ ニーズを踏まえた柔軟なプライシング設定による宅急便の利用促進と付加価値に応じた適正な運賃・料金収受を推進
- トップライン成長と安定した利益を生むオペレーション構築
  - ・ タッチポイントやサービスラインアップの拡充、地域課題を解決するソリューション提供など営業強化を継続
  - ・ 地域ごとの市場性や集配業務量に基づきリソース最適配置とコストコントロールを強化

# 5. オペレーティングコストの適正化

- ・ 輸送領域を中心に輸送効率化と作業生産性向上によるコスト削減施策を推進  
→ 輸送コストは、仕分け作業・域内輸送※のコスト適正化が進展。3Qより幹線輸送の成果刈り取りを図る

## 収入・数量・オペレーティングコストの推移※（前年同期比）



## FY2026/3 2Q(中間期)の進捗・課題

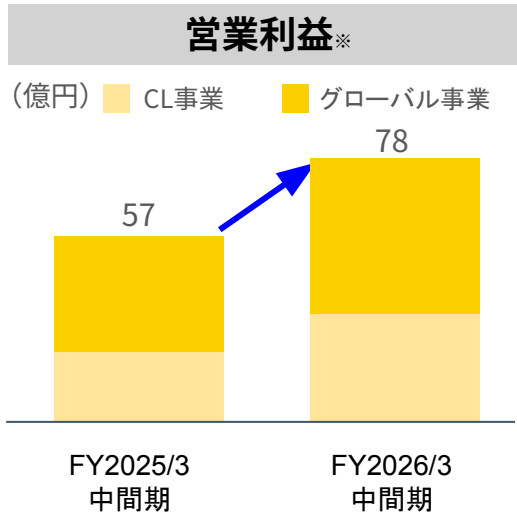
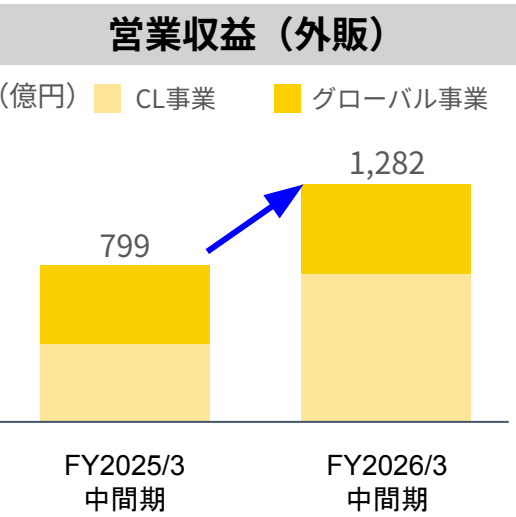
- ・ 仕分け作業のコスト適正化が継続
  - ・ オペレーション時間軸の適正化およびターミナルでの作業人材の適正配置により、生産性の向上が継続
- ・ 域内輸送※のオペレーション効率化が進展
  - ・ 低積載車両の削減により近距離輸送の効率化が進展。一方で、輸送パートナーとの持続的な関係構築に取り組む中、調達単価は上昇

## FY2026/3 下期以降の方針・施策

- ・ 効率向上による幹線輸送コストの適正化（3Q~成果刈り取り）
  - ・ 都市部における近距離輸送の効率化  
→ 首都圏の配車を一元管理する組織を立ち上げ、全体最適化により台当たり運行回数（回転率）向上を図る
  - ・ 長距離輸送の運び方見直し  
→ 荷物偏在に対応した輸送ポートフォリオの組み替えと集約拠点の見直し・中継輸送への切り替えにより輸送コストの適正化を図る

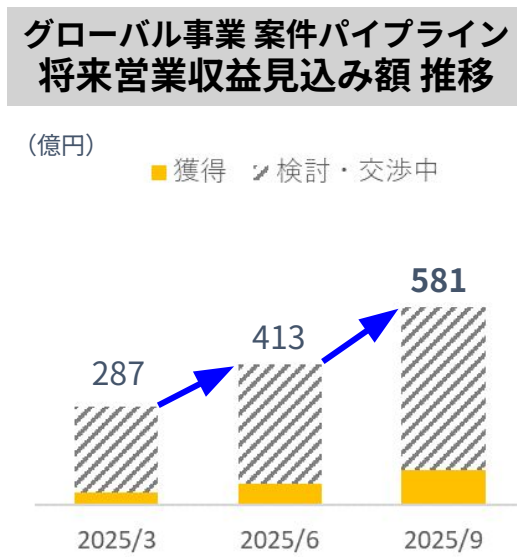
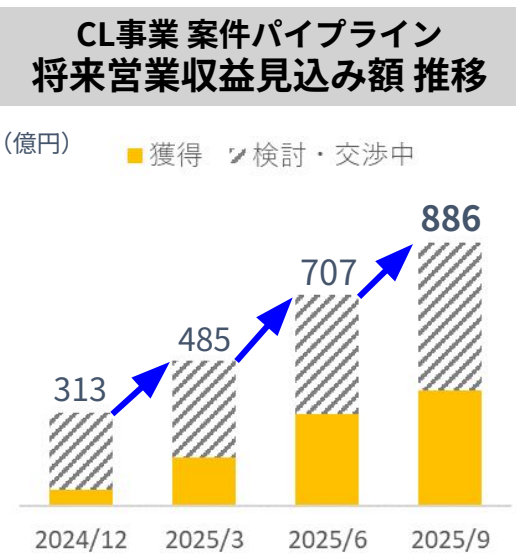
# 6. 法人向けビジネスの成長

・提供価値を拡大し顧客のビジネス拡大を支援することで、当社の利益成長につなげる方針  
→CL・グローバル事業ともに案件パイプラインを着実に積み上げ、増収・増益※



## FY2026/3 2Q(中間期)の進捗・課題

- 将来収益につながる案件パイプラインを拡大（CL事業）
  - ・CL事業の推進体制強化およびナカノ商会のノウハウ活用により、案件パイプライン（獲得含む）の着実な積み上げが進展し営業収益が拡大
- 国際小口輸送の取扱拡大（グローバル事業）
  - ・国際小口輸送の取扱拡大が全体を牽引し営業収益が拡大。海外CLの原価低減も進展し、収益性向上に貢献



## FY2026/3 下期以降の方針・施策

- 大型DC,FC案件の提案・獲得と収益性の向上（CL事業）
  - ・引き続きEC・BtoB向けに付加価値の高いサプライチェーンソリューションの提案・獲得を推進
  - ・輸送のターミナルと高度な在庫機能を持つロジセンターを融合させた統合型ビジネスソリューション拠点を展開（FY2026/3~FY2027/3 4拠点 稼働開始予定）
  - ・ノウハウの水平展開による案件立ち上げコストの抑制、拠点再編を通じた稼働率向上により収益性向上を図る
- グローバルビジネスへの付加価値創出（グローバル事業）
  - ・成長目標（営業収益CAGR+10%超）の達成に向け組織改革と事業基盤への戦略的投資を推進し、FWD競争力を強化

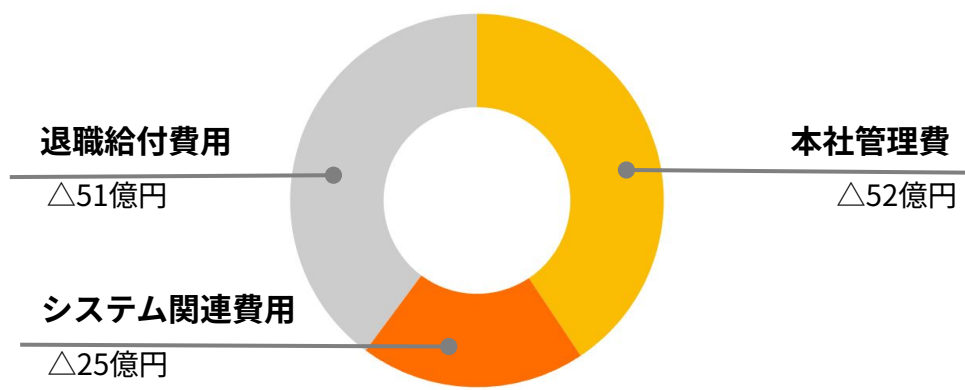
※ のれんの償却費（約7億円）・本社関連費用の配賦方法変更影響（約12億円）を除いた実力値ベース FWD：フォワーディング CL：コントラクト・ロジスティクス



# 7. 間接コストの削減

・業務プロセス改革による間接部門のスリム化や投資効率の精査によるコスト削減を推進  
→引き続き間接コストのコントロールに注力。  
データ・ドリブン経営の推進により構造的なコスト削減を目指す

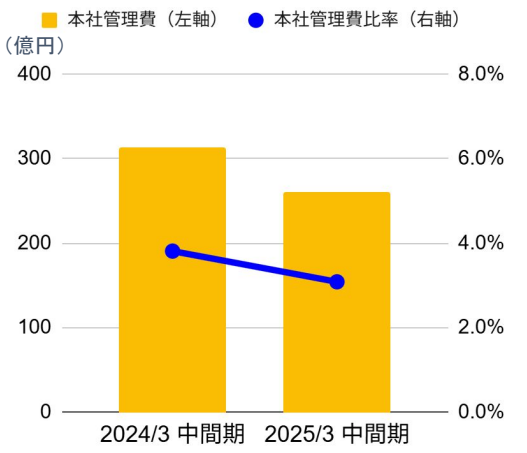
間接コストの削減 主要項目



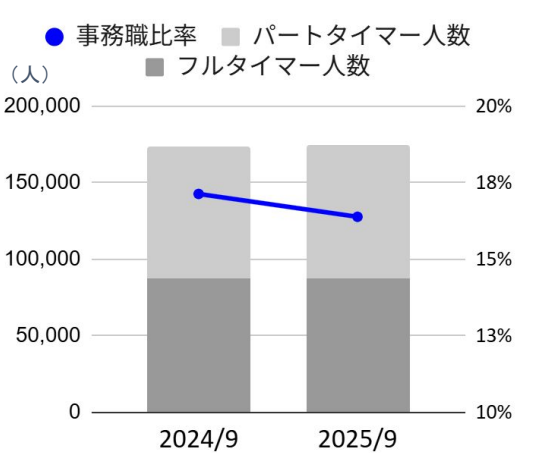
FY2026/3 2Q(中間期)の進捗・課題

- 間接コストの削減
  - ・エクスプレス事業を中心に業務の集約・標準化とAI等を活用した効率化を推進。組織階層のスリム化やお客様と向き合う第一線の組織に間接人員を再配置

本社管理費の推移 ※ヤマト運輸



社員数および事務職比率の推移



FY2026/3 下期以降の方針・施策

- データ・ドリブン経営の本格推進
  - ・生成AIをはじめとした進化するテクノロジーを有効活用しバックオフィス領域や管理部門の業務効率化、および人材の適正配置を推進し、構造的なコスト削減を図る



# 8. 連結業績予想（主要指標）

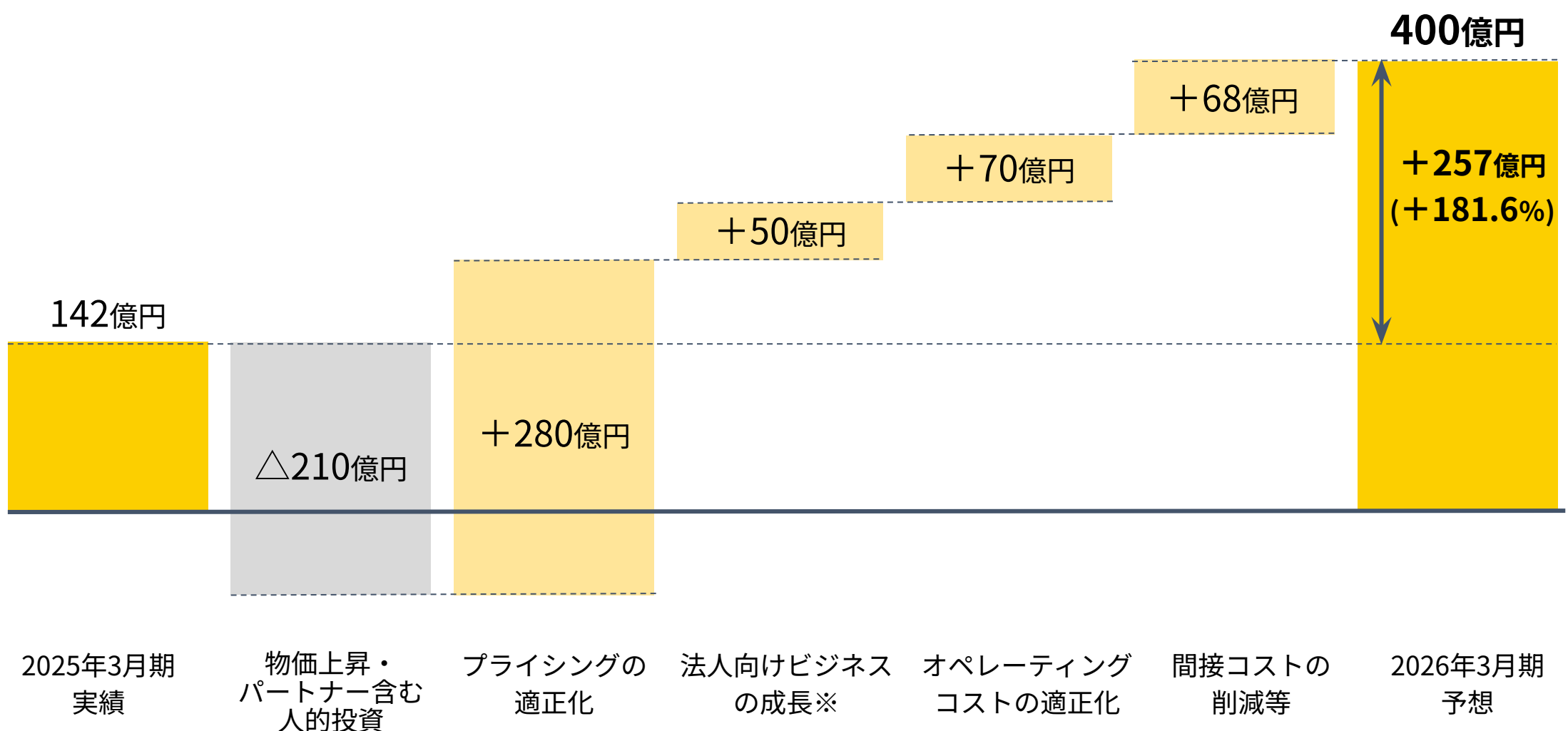
・引き続き、プライシング適正化、法人向けビジネス拡大、オペレーティングコスト適正化および間接コストの削減に注力しつつ、B/Sマネジメントの強化を推進  
 →今期業績予想の達成および来期以降の持続的な利益成長と企業価値向上につなげる

(億円)	FY2025/3 実績	FY2026/3 前回予想	FY2026/3 今回予想 (変更なし)	前回予想比較		前期比較	
				増減	伸率 (%)	増減	伸率 (%)
営業収益	17,626	18,800	18,800	－	－	+1,173	+6.7
営業利益	142	400	400	－	－	+257	+181.6
利益率 (%)	0.8	2.1	2.1	－	－	+1.3	－
経常利益	195	400	400	－	－	+204	+104.2
親会社株主に帰属する 当期純利益	379	240	240	－	－	△ 139	△ 36.7
ROE (%)	6.5	4.1	4.1	－	－	△ 2.4	－
ROIC (%)	1.4	3.7	3.7	－	－	+2.3	－

※(株)ナカノ 商会の連結影響含む（2025年3月期第4四半期～）

# 9. 連結業績予想\_営業利益の増減要因（前期差）

- ・ 宅急便ネットワークの強靱化に向けた人的投資を実行しつつ、利益成長ドライバーの施策を推進し、**通期で257億円の増益につなげる**



※のれんの償却費（約7億円）、本社関連費用の配賦方法変更影響（約12億円）を除いた実力値ベース

# 10. 中期経営計画アップデートの背景

- ・長期ビジョン、戦略骨子は維持。事業環境の変化と進捗を踏まえ、数値計画を再設定  
→利益成長ドライバーの強化と資本収益性の向上により、着実な企業価値向上を図る  
→中長期視点で成長戦略と構造改革を両輪で回し、持続的な成長軌道にのせる

## 現状認識

### 外部環境

- 「2024年問題」の本質的变化とコスト圧力
  - ・品質・安定供給力を持つ事業者への事業機会へと変化
  - ・付加価値に見合うプライシングの重要性が増大
- 地政学リスクの一層の高まり
  - ・サプライチェーンの再編・強靱化に対する顧客ニーズの高まりにより、新たな成長機会が拡大
- 生成AIをはじめとするテクノロジーの進化
  - ・業務プロセスの抜本的な効率化やデータ活用による価値創造の可能性が飛躍的に拡大

### 内部環境

- 戦略施策が想定効果に至らず、初年度2025年3月期は計画と差異が発生
- 利益成長のドライバーを特定し、施策を推進。  
2025年3月期下期より増収増益に転じ、2026年3月期中間期も改善を継続

## アップデート

### 1 利益成長ドライバーの強化

- プライシングの適正化
- オペレーティングコストの適正化
- 法人向けビジネスの成長
- 間接コストの削減

#### さらなる成長に向けた取組み

- ・データ・ドリブン経営の本格推進
- ・グリーン・モビリティの事業化

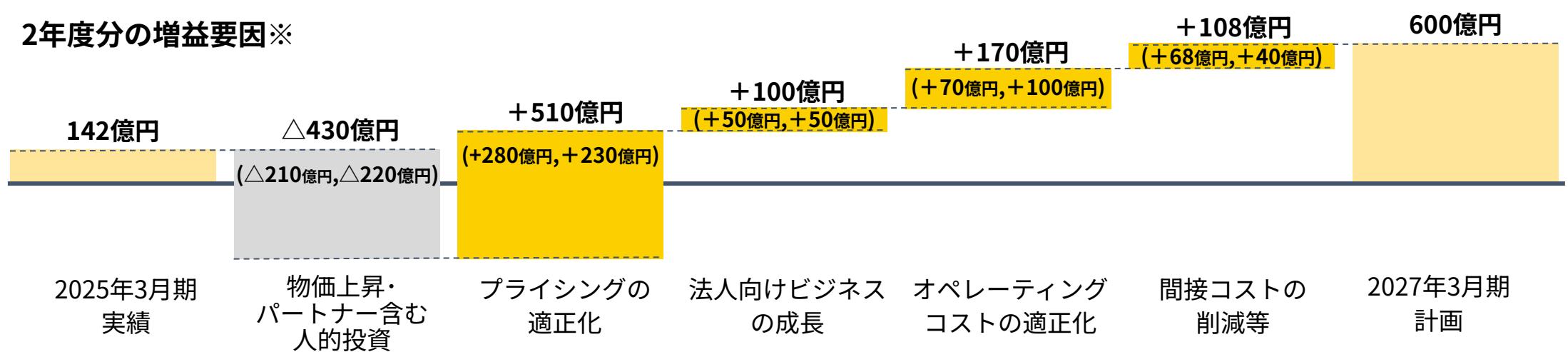
### 2 バランスシート・マネジメントの強化と キャピタル・アロケーションの最適化

- 保有資産の継続的な見直しによる成長原資の創出
- 規律ある成長投資とM&A戦略の実行
- 最適資本構成の追求と株主還元の強化

# 11. 中期経営計画（アップデート）

- ・ 中長期視点で成長戦略を断行し、持続的な収益拡大・利益成長を実現
- ・ 保有資産の見直し、最適資本構成の追求、規律ある投資と機動的な資本政策により資本収益性を向上

	FY2025/3 実績	FY2026/3 予想	FY2027/3	
			計画	前期差
営業収益	1兆7,626億円	1兆8,800億円	1兆9,400億円	+600億円
営業利益	142億円	400億円	600億円	+200億円
営業利益率	0.8%	2.1%	3.1%	+1.0pts.
親会社株主に帰属する 当期純利益	379億円	240億円	360億円	+120億円
ROE	6.5%	4.1%	6%以上	—
ROIC	1.4%	3.7%	5%以上	—



# 12. 資本効率の最大化に向けた財務戦略

- ・これまでの「守り」の財務から、資本効率を重視した「攻め」の財務戦略へ転換
- ・ストックであるバランスシートを徹底的に効率化して成長原資を創出しつつ、規律ある成長投資と株主還元以最適配分し、企業価値向上につなげる

## バランスシート・マネジメント

- 目的

  - ・ 成長投資と株主還元の源泉となるキャッシュ・フロー創出力を最大化
- 施策

  - ・ 保有資産の最適化
    - ・ 保有する不動産等の有効活用または売却・オフバランス化を継続して進める
    - ・ 政策保有株式の継続的縮減
  - ・ 最適な資本構成の追求
    - ・ 自己資本比率の目安：45%程度
    - ・ 財務規律を維持しつつ、有利子負債を戦略的に活用してWACC（加重平均資本コスト）の低減を図り、最適な資本構成の確立と持続的な企業価値向上を実現する

## キャピタル・アロケーション

- 目的

  - ・ 創出したキャッシュを、企業価値を最大化する先に最適配分する
- 資金使途

  - ・ 事業ポートフォリオ変革を加速する「成長投資」
    - ・ 設備投資：宅急便ネットワークの強靱化やDXなど、基盤事業の収益性向上に資する投資を厳選して実施
    - ・ M&A：明確なシナジーが見込める案件に対し実施
    - ・ 規律：ROICなどを基準に資本効率の最大化を徹底
  - ・ 株主価値を最大化する「株主還元」
    - ・ 安定配当：配当性向40%以上を目標
    - ・ 自己株式取得：2024年11月公表の500億円は完了  
→当初掲げた1,000億円の株主還元は完了予定  
追加の自己株式取得を検討  
(キャッシュ・フローの動向、株価水準などを考慮)

# 補足資料

＜2026年3月期 第2四半期（中間期）＞



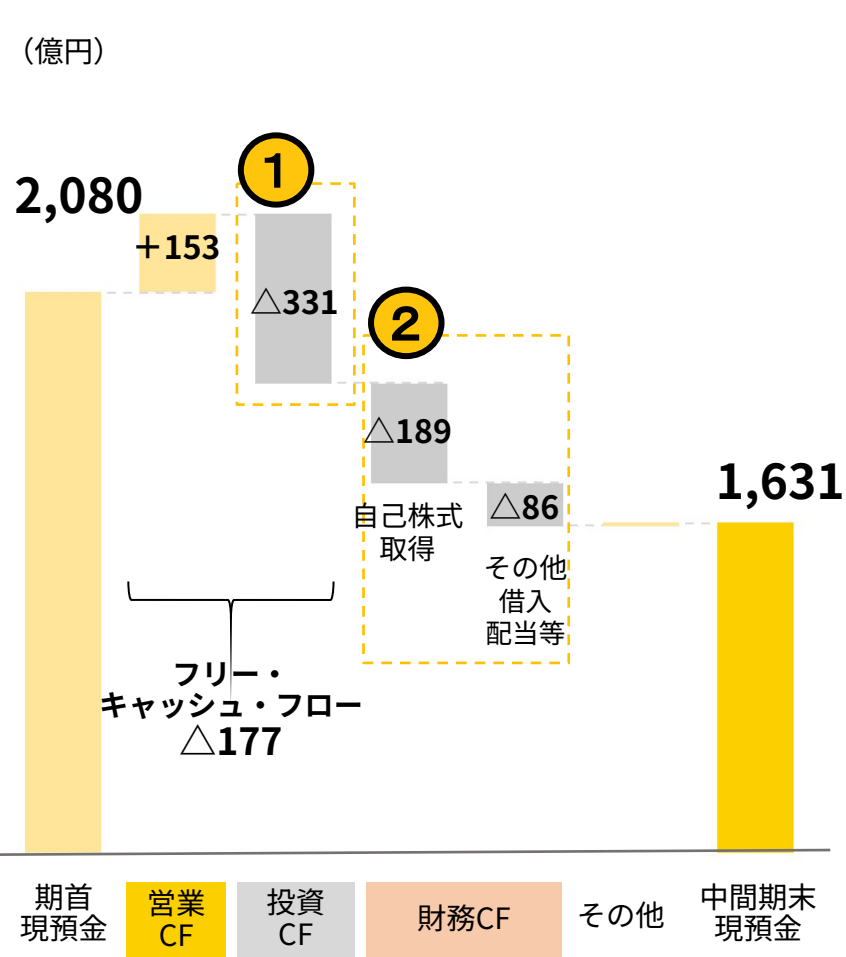


# 13. 連結業績（中間期）

(億円)	FY2025/3 中間期実績	FY2026/3 中間期実績	前期比較		主要要因（前期差） ※△は費用・損失
			増減	伸率（%）	
営業収益	8,404	9,067	+ 663	+ 7.9	
営業利益	△ 150	△ 37	+ 112	—	
営業外損益	13	0	△ 13	△ 97.4	・受取利息及び配当金 13（+1） ・支払利息 △11（△4） ・持分法による投資損失 △6（△2）
経常利益	△ 136	△ 37	+ 99	—	
特別損益	△ 3	△ 0	+ 3	—	・固定資産売却益 3（+3） ・子会社清算益 1（+1） ・減損損失 △2（△2）
税金等調整前中間純利益	△ 140	△ 38	+ 102	—	
法人税等	△ 29	10	+ 39	—	
中間純利益	△ 111	△ 48	+ 62	—	
親会社株主に帰属する 中間純利益	△ 111	△ 48	+ 62	—	

# 14. 連結キャッシュ・フロー

- ①法人向けビジネスの成長や宅急便ネットワークの強靱化に向けた設備投資を実施
  - ②2024年11月より開始した、500億円を上限とする自己株式の取得を完了
- 健全なキャッシュ・ポジションを維持しつつ、戦略的な成長投資と株主還元を実行



(億円)	FY2025/3 中間期 実績	FY2026/3 中間期 実績	増減	主な要因 (前期差)
営業CF	45	153	+107	税金等調整前純利益 △38 (+102) 減価償却費・減損損失・ のれん償却額 269 (+34) 売上債権・仕入債務の増減 △167 (△76)
投資CF	△ 356	△ 331	+25	有形固定資産の取得 △270 (△23) 投資有価証券の取得 △3 (+37)
FCF※	△ 311	△ 177	+133	
財務CF	△ 0	△ 275	△ 274	借入金・社債等増減 (ネット) △8 (△88) 自己株式取得 △189 (△189) 配当金支払 △75 (+3)
現金および 現金同等物の 中間期末残高	1,639	1,631	△ 8	
設備投資	253	299	+45	
減価償却費	234	259	+24	

※フリー・キャッシュ・フロー (FCF) = 営業CF + 投資CF 14

# 15. 連結貸借対照表

- ・ キャッシュマネジメントを強化し、手元現預金を圧縮
- ・ 健全性を意識しつつ、有利子負債活用と自己株式取得により自己資本比率をコントロール
- ・ バランスシート・マネジメントを強化し、保有資産の最適化に向けたアクションを順次実施予定

(億円)	2025年3月末	2025年9月末	増減（前期末差）
資産合計	12,674	12,236	△ 437
流動資産	5,211	4,723	△ 488
うち現金及び預金	2,086	1,635	△ 450
うち受取手形、売掛金及び契約資産	2,197	2,188	△ 9
固定資産	7,462	7,513	+50
うち建物及び構築物	1,778	1,772	△ 5
うち車両運搬具	293	258	△ 35
うちリース資産	443	483	+39
うちのれん	158	150	△ 7
負債合計	6,670	6,544	△ 126
うち有利子負債	1,737	1,818	+80
純資産合計	6,003	5,692	△ 311
うち株主資本	5,603	5,290	△ 313
うちその他の包括利益累計額	289	292	+3
自己資本	5,892	5,583	△ 309
自己資本比率（%）	46.5	45.6	△ 0.9
D/Eレシオ（倍）	0.29	0.33	+0.04

※（株）ナカノ商会の連結影響を含む 15

# 16.セグメント別業績

FY2026/3 中間期

(億円)	エクスプレス 事業	コントラクト・ ロジスティクス 事業	グローバル 事業	モビリティ 事業	その他	合計	調整額	連結損益 計算書計上額
営業収益	7,760	900	505	335	336	9,838	△ 770	9,067
外部顧客に対する営業収益	<b>7,557</b>	<b>795</b>	<b>487</b>	<b>103</b>	<b>123</b>	<b>9,067</b>	—	<b>9,067</b>
セグメント間の内部営業収益又は振替高	203	105	18	231	212	770	△ 770	—
営業費用	7,927	875	459	309	303	9,876	△ 771	9,105
セグメント利益	<b>△ 167</b>	<b>25</b>	<b>45</b>	<b>25</b>	<b>32</b>	<b>△ 38</b>	<b>0</b>	<b>△ 37</b>
利益率 (%)	△ 2.2	2.8	9.1	7.6	9.7	△ 0.4	—	△ 0.4

FY2025/3 中間期

(億円)	エクスプレス 事業	コントラクト・ ロジスティクス 事業	グローバル 事業	モビリティ 事業	その他	合計	調整額	連結損益 計算書計上額
営業収益	7,559	412	428	267	365	9,033	△ 629	8,404
外部顧客に対する営業収益	7,374	389	410	100	129	8,404	—	8,404
セグメント間の内部営業収益又は振替高	184	23	17	167	236	629	△ 629	—
営業費用	7,837	387	383	247	329	9,185	△ 631	8,554
セグメント利益	△ 278	24	45	20	35	△ 151	1	△ 150
利益率 (%)	△ 3.7	6.0	10.5	7.8	9.7	△ 1.7	—	△ 1.8

【前期比較】

(億円)		エクスプレス 事業	コントラクト・ ロジスティクス 事業	グローバル 事業	モビリティ 事業	その他	合計	調整額	連結損益 計算書計上額
営業収益	増減	+201	+488	+77	+67	△ 28	+805	△ 141	+663
	伸率 (%)	+2.7	+118.3	+18.0	+25.2	△ 7.9	+8.9	—	+7.9
	外部顧客に対する営業収益	+182	+406	+76	+3	△ 5	+663	—	+663
	セグメント間の内部営業収益又は振替高	+18	+81	+0	+64	△ 23	+141	△ 141	—
営業費用	増減	+90	+487	+76	+62	△ 26	+691	△ 139	+551
	伸率 (%)	+1.2	+125.7	+19.9	+25.4	△ 7.9	+7.5	—	+6.4
セグメント利益	増減	+110	+0	+0	+4	△ 2	+113	△ 1	+112
	伸率 (%)	—	+2.5	+1.7	+22.7	△ 8.1	—	△ 89.7	—

※(株)ナカノ商会の連結影響含む（2025年3月期第4四半期～）／2026年3月期より、ヤマト運輸(株)の本社関連費用の各事業への配賦方法を変更

# 17. 取扱数量・単価動向

- ・ 宅配便3商品 : 宅急便部門の数量拡大および法人部門のプライシング適正化が進展
- ・ ネコポス・クロネコゆうパケット: 集荷や翌日配達などの強みを活かして、ネコポスの数量拡大
- ・ クロネコゆうメール : サービスラインアップの一つとして販売継続（配達 は 日本郵便に委託）

## 取扱数量

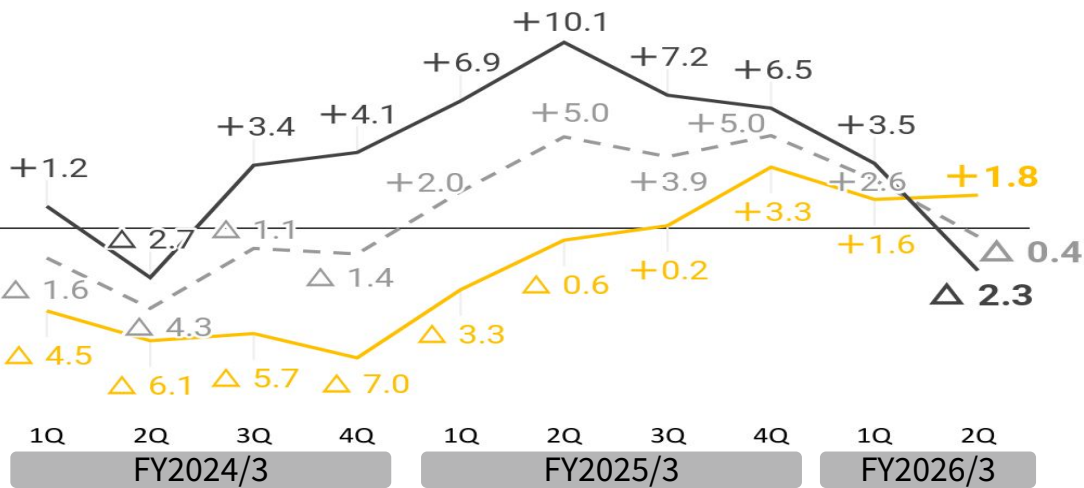
(千個)	FY2025/3 中間期実績	FY2026/3 中間期実績	伸率 (%)
宅急便・宅急便コンパクト・EAZY	944,172	954,009	+1.0
宅急便部門（小口法人・個人）	428,244	435,529	+1.7
法人部門（大口法人）	515,928	518,479	+0.5
ネコポス・クロネコゆうパケット	195,300	216,961	+11.1
クロネコゆうメール	56,297	47,293	△ 16.0

## 平均単価

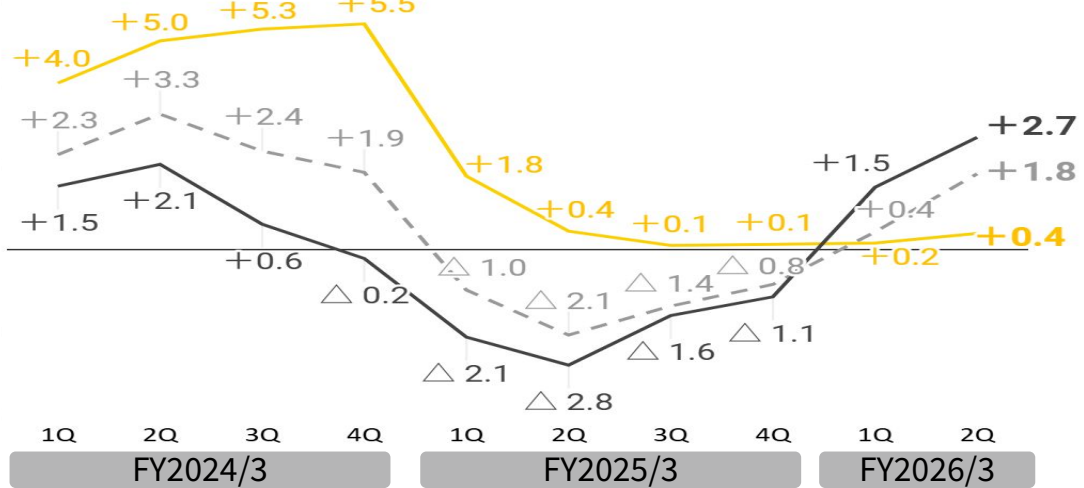
(円)	FY2025/3 中間期実績	FY2026/3 中間期実績	伸率 (%)
宅急便・宅急便コンパクト・EAZY	708	717	+1.3
ネコポス・クロネコゆうパケット	190	188	△ 1.1
クロネコゆうメール	79	86	+8.9

— 合計（宅急便+法人）
 — 宅急便
 — 法人

宅配便 3 商品 領域別取扱数量推移（前年同期比伸率）



宅配便 3 商品 領域別単価推移（前年同期比伸率）



※宅配便3商品：宅急便・宅急便コンパクト・EAZY 17

# 18. 連結営業費用

(億円)	FY2025/3 中間期実績	FY2026/3 中間期実績	前期比較	
			増減	伸率 (%)
営業収益	8,404	9,067	+663	+7.9
営業費用	8,554	9,105	+551	+6.4
下払経費	3,299	3,782	+482	+14.6
委託費	1,767	1,885	+117	+6.6
集配委託	428	522	+93	+21.8
作業委託	213	212	△ 0	△ 0.4
EC物流NW	147	97	△ 50	△ 34.1
その他	978	1,053	+75	+7.7
備車費	1,141	1,405	+263	+23.1
その他	390	491	+101	+26.0
人件費	3,989	4,052	+63	+1.6
社員給料	2,680	2,723	+43	+1.6
法定福利費	508	510	+2	+0.5
退職給付費用	135	83	△ 51	△ 37.9
賞与・その他	665	734	+68	+10.3
車両費	268	274	+5	+2.2
車両修繕費	131	136	+5	+3.9
燃料油脂費	136	137	+0	+0.6
その他経費	1,824	1,979	+154	+8.5
減価償却費	234	259	+24	+10.6
システム関連費用	300	274	△ 25	△ 8.4
施設使用料	460	590	+130	+28.3
その他	829	854	+24	+3.0
合計	9,382	10,088	+706	+7.5
内部仕入消去	△ 828	△ 983	△ 155	—
営業利益	△ 150	△ 37	+112	—

※(株)ナカノ商会の連結影響含む (2025年3月期第4四半期～)



# 19. 従業員の状況

(人)	FY2025/3 中間期			FY2026/3 中間期			前期比較			
	フル タイマー	パート タイマー	計	フル タイマー	パート タイマー	計	フル タイマー	パート タイマー	計	伸率(%)
総人数	87,755	85,779	173,534	87,657	86,957	174,614	△ 98	+1,178	+1,080	+0.6
エクスプレス 事業	79,321	80,189	159,510	77,028	80,597	157,625	△ 2,293	+408	△ 1,885	△ 1.2
コントラクト・ ロジスティクス事 業	1,485	2,854	4,339	3,788	3,891	7,679	+2,303	+1,037	+3,340	+77.0
グローバル事業	2,411	240	2,651	2,503	216	2,719	+92	△ 24	+68	+2.6
モビリティ事業	1,508	596	2,104	1,434	591	2,025	△ 74	△ 5	△ 79	△ 3.8
その他	3,030	1,900	4,930	2,904	1,662	4,566	△ 126	△ 238	△ 364	△ 7.4

※(株)ナカノ 商会の連結影響含む (2025年3月期第4四半期～)

# 20. 設備投資

案件(M&Aを除く)		目的	FY2026/3 中間期実績 299億円	FY2026/3 通期予想 (変更なし) 800億円
成長投資	拠点戦略	オペレーションの効率化と固定費の削減 働きやすい職場環境の構築	43億円	220億円
	DX推進	お客様への提供価値の拡大や オペレーションの変革による生産性向上	29億円	80億円
	新規事業	将来の事業成長と持続可能な未来に 資する新たな事業創出	0億円	20億円
環境投資	EV充電設備 ・太陽光発電等	低炭素社会の実現や、お客様に対する 環境負荷の少ない物流サービスの提供	12億円	100億円
経常投資	宅急便既存拠点の 改修等	既存ネットワークの維持	130億円	180億円
	その他拠点、 既存システムの改修等	既存事業の維持等	82億円	200億円

# 21. 連結業績予想

(億円)	FY2025/3 実績	FY2026/3 前回予想	FY2026/3 今回予想	前回予想比較		前期比較	
				増減	伸率 (%)	増減	伸率 (%)
営業収益	17,626	18,800	18,800	—	—	+1,173	+6.7
営業利益	142	400	400	—	—	+257	+181.6
利益率 (%)	0.8	2.1	2.1	—	—	+1.3	—
経常利益	195	400	400	—	—	+204	+104.2
親会社株主に帰属する 当期純利益	379	240	240	—	—	△ 139	△ 36.7

宅急便・ 宅急便 コンパクト・ EAZY	数量 (千個)	1,961,213	1,949,600	1,959,500	+9,900	+0.5	△ 1,713	△ 0.1
	宅急便部門 (小口法人・個人)	891,931	916,500	910,200	△ 6,300	△ 0.7	+18,268	+2.0
	法人部門 (大口法人)	1,069,282	1,033,100	1,049,300	+16,200	+1.6	△ 19,982	△ 1.9
	単価 (円)	711	729	725	△ 4	△ 0.5	+14	+2.0
ネコポス・ クロネコ ゆうパケット	数量 (千個)	391,154	398,700	438,500	+39,800	+10.0	+47,345	+12.1
	単価 (円)	189	195	188	△ 7	△ 3.6	△ 1	△ 0.5
クロネコ ゆうメール	数量 (千冊)	110,076	99,000	93,400	△ 5,600	△ 5.7	△ 16,676	△ 15.1
	単価 (円)	79	82	86	+4	+4.9	+7	+8.9

※(株)ナカノ 商会の連結影響含む (2025年3月期第4四半期～)

# 22. 連結業績予想（営業費用他）

(億円)	FY2025/3 実績	FY2026/3 前回予想	FY2026/3 今回予想	前回予想比較		前期比較	
				増減	伸率 (%)	増減	伸率 (%)
営業収益	17,626	18,800	18,800	—	—	+1,173	+6.7
営業費用	17,484	18,400	18,400	—	—	+915	+5.2
下払経費	6,937	7,531	7,626	+95	+1.3	+688	+9.9
委託費	3,645	3,724	3,815	+91	+2.4	+169	+4.7
集配委託	944	1,029	1,073	+44	+4.3	+128	+13.6
作業委託	455	451	430	△ 21	△ 4.7	△ 25	△ 5.6
EC物流NW	246	139	192	+53	+38.1	△ 54	△ 22.1
その他	1,998	2,105	2,120	+15	+0.7	+121	+6.1
備車費	2,473	2,829	2,830	+1	+0.0	+356	+14.4
その他	818	978	981	+3	+0.3	+162	+19.8
人件費	7,949	8,233	8,146	△ 87	△ 1.1	+196	+2.5
社員給料	5,384	5,605	5,545	△ 60	△ 1.1	+160	+3.0
法定福利費	1,006	1,065	1,037	△ 28	△ 2.6	+30	+3.0
退職給付費用	269	184	171	△ 13	△ 7.1	△ 98	△ 36.5
賞与・その他	1,289	1,379	1,393	+14	+1.0	+103	+8.0
車両費	524	543	548	+5	+0.9	+23	+4.6
車両修繕費	258	255	263	+8	+3.1	+4	+1.7
燃料油脂費	265	288	285	△ 3	△ 1.0	+19	+7.4
その他経費	3,765	4,021	4,032	+11	+0.3	+266	+7.1
減価償却費	485	511	516	+5	+1.0	+30	+6.2
システム関連費用	587	553	550	△ 3	△ 0.5	△ 37	△ 6.4
施設使用料	988	1,207	1,225	+18	+1.5	+236	+23.9
その他	1,703	1,750	1,741	△ 9	△ 0.5	+37	+2.2
合計	19,177	20,328	20,352	+24	+0.1	+1,174	+6.1
内部仕入消去	△ 1,692	△ 1,928	△ 1,952	△ 24	—	△ 259	—
営業利益	142	400	400	—	—	+257	+181.6
従業員数合計（人）	172,822	174,200	174,200	—	—	+1,378	+0.8
フルタイマー	88,102	87,200	87,200	—	—	△ 902	△ 1.0
パートタイマー	84,720	87,000	87,000	—	—	+2,280	+2.7
設備投資総額（億円）	846	800	800	—	—	△ 46	△ 5.5

※(株)ナカノ 商会の連結影響含む（2025年3月期第4四半期～）

# 23. 連結業績予想（セグメント別）

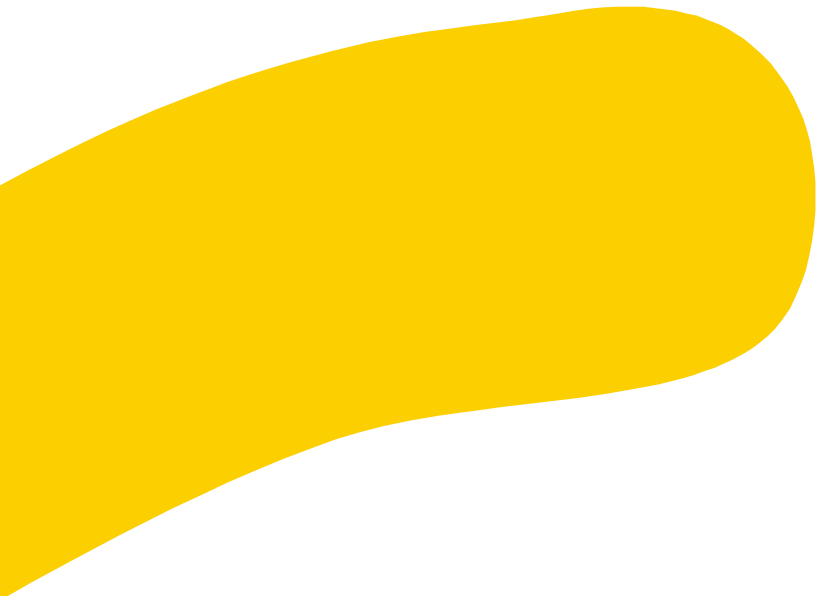
(億円)		FY2025/3 実績	構成比(%)	FY2026/3 予想 (変更なし)	構成比(%)	前期比較	
						増減	伸率(%)
エクスプレス事業	外部顧客に対する営業収益	15,347	87.1	15,699	83.5	+351	+2.3
	営業利益	△ 128	△ 94.2	105	26.6	+233	—
コントラクト・ロジスティクス事業	外部顧客に対する営業収益	970	5.5	1,671	8.9	+700	+72.1
	営業利益	55	40.8	104	26.3	+48	+86.3
グローバル事業	外部顧客に対する営業収益	859	4.9	973	5.2	+113	+13.2
	営業利益	90	65.9	87	22.0	△ 3	△ 3.6
モビリティ事業	外部顧客に対する営業収益	205	1.2	229	1.2	+23	+11.7
	営業利益	37	27.6	42	10.6	+4	+11.1
その他	外部顧客に対する営業収益	244	1.4	228	1.2	△ 16	△ 6.8
	営業利益	82	59.9	57	14.4	△ 25	△ 30.5
連結仕訳	外部顧客に対する営業収益	—	—	—	—	—	—
	営業利益	5	—	5	—	△ 0	—
合計	外部顧客に対する営業収益	17,626	100.0	18,800	100.0	+1,173	+6.7
	営業利益	142	—	400	—	+257	+181.6

※各セグメントの営業利益および営業利益構成比は、セグメント間取引消去前の数値 / (株)ナカノ商会の連結影響含む（2025年3月期第4四半期～）  
 / 2026年3月期より、ヤマト運輸(株)の本社関連費用の各事業への配賦方法を変更

# 24. 連結業績予想（従業員数）

(人)	FY2025/3 実績			FY2026/3 予想 (変更なし)			前期比較			
	フル タイマー	パート タイマー	計	フル タイマー	パート タイマー	計	フル タイマー	パート タイマー	計	伸率(%)
総人数	88,102	84,720	172,822	87,200	87,000	174,200	△ 902	+2,280	+1,378	+0.8
エクスプレス 事業	77,786	78,389	156,175	76,000	80,000	156,000	△ 1,786	+1,611	△ 175	△ 0.1
コントラクト・ ロジスティクス 事業	3,583	3,765	7,348	4,000	4,400	8,400	+417	+635	+1,052	+14.3
グローバル事業	2,370	229	2,599	2,500	200	2,700	+130	△ 29	+101	+3.9
モビリティ事業	1,461	585	2,046	1,600	700	2,300	+139	+115	+254	+12.4
その他	2,902	1,752	4,654	3,100	1,700	4,800	+198	△ 52	+146	+3.1





#### 免責事項

この内容は、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。提供情報の内容については万全を期しておりますが、完全性、正確性を保証するものではありません。いかなる情報も、不的確な記載や誤植等を含む可能性があります。銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当社としては一切の責任を負いかねますのでご承知ください。